

和歌山南ロータリークラブ週報



WAKAYAMA SOUTH R.C. CLUB WEEKLY

2026年 4月 第3週

2025～2026年度
国際ロータリー会長メッセージ

事務所 〒640-8215 和歌山市橋丁23
N-4ビル 2F
TEL(073)423-8822 FAX(073)423-8821

ガバナー	北野治義	幹事	戸井洋木
会長	前嶋ヒロム	会長 <small>エレクト</small>	石橋英二
直前会長	岩本 研		
副会長	北畑博史		
会報委員長	江口暢洋	副委員長	広瀬晋作
委員	石橋英二	林 勇伺	野口雅之
	越部早絵	大工博史	井口善隆

<http://www.wminamirc.jp/>

例会場 〒640-8156 和歌山市七番丁26-1
ダイワロイネットホテル和歌山 TEL(073)435-0055

例会日 毎週金曜日 12時30分～13時30分

2024-25年度 RI会長 フランチェスコ・アレツォ 「UNITE FOR GOOD」

よいことのために
手を取りあおう



本日のプログラム

2026年4月17日(金) No.3039

第3096回 例会

- ソング「我らの生業」
- 卓話「和歌山市社会福祉協議会
ボランティア連絡協議会
ピアボランティアって何？」
庵田 勤子 会員

次週のプログラム

4月26日(日)

- ソング「四つのテスト」
- 創立65周年記念例会・懇親会
ダイワロイネットホテル和歌山
17:30～

会長報告

皆さんこんにちは、4月は環境月間ですが、環境と言えば思い出すのは 前田会長の時に片男波の清掃を地域の小学生と共に行った事を思い出します。

まさに 地域への貢献とロータリーの社会奉仕を 多くの方々に理解していただけたと 今でも思い出します。素晴らしい社会奉仕でした。

65周年の和歌山城動物園のきれいになった事も子供達の記憶に残って欲しいと思います。ありがとうございました。



幹事報告

4月12日(日)、第2640地区のクラブリーダーシップラーニングセミナー(CLLS)です。関係役員のみなさまは、ご出席よろしくお願いたします。



親睦活動委員会メンバー



出席報告



田邊 出席委員

ゲスト紹介



野口 親睦活動委員

前週の報告 2026年4月10日(金)
出席報告 会員77名(出席規定適用免除会員7名)
出席45名 ホームクラブ出席者58.44%

四つのテスト (言行はこれに照らしてから) I 真実かどうか II みんなに公平か III 好意と友情を深めるか IV みんなのためになるかどうか

委員会 報告



ロータリーの友
4月号の紹介

雑誌広報委員会 北芝昌明副委員長



和田至郎会員より旭堂
南和様の紹介がありまし
た。

ニコニコ箱



事業所創立・・・迫間君・吉村君
岡崎君・・・豊田先生・三木先生 先日は、ごちそうになりま
した。
前嶋君・・・サクラが去った後65周年が近づいてまじりまし
た。よろしくお願ひします。

計 ¥16,000 - 累計 ¥2,074,885 -

本日のお食事



卓 話

「なぜ講談師になった のか」

講談師
旭堂 南和 様



皆さま、本日は「なぜ講談師になったのか」というテーマで
お話しさせていただきます。

私は和歌山市に生まれ、和大附属小・中学校から、桐蔭
高校、京都大学文学部へと進学。卒業後は和歌山県庁に
入庁し、20年間勤務しました。企画や財政、広報など様々
な部署を経験する中で、行政の仕事にやりがいを感じつ
つも、「自分は本当に何がしたいのか」という問いを心のど
こかで持ち続けていました。

転機となったのは、仕事の傍らで始めた落語や講談との出
会いです。人前で語ること、声で表現することの面白さに
惹かれ、次第にその思いが強くなっていきました。講談教
室に通ううち、「これを自分の仕事にしたい」という気持ち
が、徐々に高まってきました。

そして45歳の頃、いわゆるミドルエイジ・クライシス(中年の
思春期)を迎え、「このままの人生でよいのか」と深く自問す
るようになりました。その中で、「声を使う仕事がしたい」と
いう思いがはっきりと形になり、講談の道へ進む決断をしま
した。安定した職を離れることへの不安はありましたが、「挑
戦するなら今しかない」という気持ちが背中を押しました。

講談は、歴史にまつわる物語を読む日本の伝統芸能で
す。登場人物の心情や時代背景を深く理解し、自分自身
の言葉として表現することが求められます。「芸は教わるも
のではなく盗むもの」と言われる世界でもあり、日々試行錯
誤を続けています。

「なぜ講談師になったのか」という問いに性急に答えを出
すことはできません。むしろこの問いを自分自身に問い続
けることが、これからの自分の芸を深める手がかりになるの
ではないかと感じています。

本日の話が、皆さまの日々の中で、ふと考える小さな材料
の一つになれば幸いです。

ご清聴ありがとうございました。



2025-2026年度テーマ: 「手を取りあって前進しよう」